

標本設計の考え方

1. 基本的な考え方

全国規模で、月次の産業別売上高について QE 推計上必要とされる精度を確保する。また前期比等の精度向上のため、標本のローテーションを行う。

2. 抽出母集団

当面は平成 18 年事業所・企業統計調査の事業所名簿を抽出母集団とし、経済センサスによる母集団名簿が利用可能となった段階で見直しを行う。

3. 抽出単位

標本の抽出単位は事業所を基本とする。

企業単位でしか把握できないと考えられる産業については、推計方法や集計単位等についてさらに検討する。

4. 抽出方法

産業（結果表章区分又はこれを細分化した区分）別に抽出を行う。

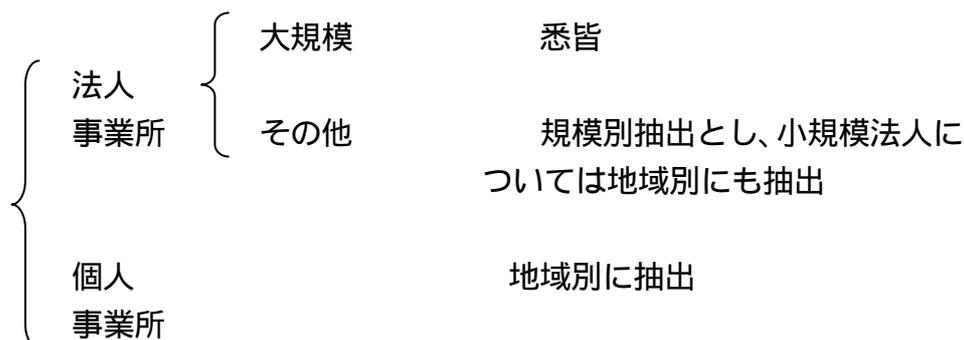
さらに、大規模事業所は悉皆、小規模事業所については層化多段抽出法により抽出する。

(1) 悉皆層、抽出層とする事業所の規模の層化基準

事業所の規模の層化基準については、売上高のデータを考慮しつつ、従業者規模又は企業の資本金を用いて設定することとし、具体的な基準値については、今後検討する。

平成 23 年実施予定の経済センサスにより売上高のデータが利用可能となった段階で、層化基準について見直しを行う。

(2) 事業所の抽出方法



(3) 調査対象事業所の交替

前年同期比等の精度向上のため、標本のローテーションを行う。

具体的には、調査対象事業所を2年以上継続して調査した後、別の事業所に交替する。また、交替の時期については、事業所母集団全体をいくつかのグループに分割し、グループごとにずらして定める。

(4) 調査対象事業所の新設・廃業への対応

今後、商業登記簿により母集団名簿が定期的に更新されることを前提に、次のとおりとする。

事業所の廃業への対応

悉皆層に当たる事業所の廃業については、特段の対応はしない。

抽出層における調査対象事業所が廃業した場合は、同じ層から代替となる事業所を補充する。

事業所の新設への対応

悉皆層に当たる事業所の新設については、母集団名簿の更新に基づき、時期を定めて追加する。

抽出層の扱いについては、今後検討する。

5. 目標精度

QE 推計上必要とされる精度を確保する。

6. 結果の推計方法

線形推定による総額推計を行う方向とし、事業所の新設等による母集団構造の変化の反映についての考え方も踏まえ、さらに検討を行う。